

令和元年 7 月 10 日

新潟市長 中原八一 様

新潟市内ほか高校ダンス部員、ダンス部 OB・OG 有志一同
代表 新潟南高校ダンス部 OB 早福圭太
(新潟大学 1 年モダンダンス部所属)

Noism の活動継続を求める要望書

先日、Noism の令和 2 年（2020 年）9 月以降の活動について、市長は 8 月までに判断されるとの報道に接しました。同時に、「強い支持がある一方、市民の理解度は不足している」と認識されていることも読み、いてもたってもいられず、今、私たちの声を届けなければと思います、ここにいる次第です。

新潟市でダンスに打ち込む者にとって、これまで常に見上げる視線の先にあり、私たちが照らす輝く星のような存在、それが Noism でした。

「新潟市には Noism がある」。この先もずっとそうだと疑いもなく信じてきました。しかし、現在、市の財政状況から、そうではない可能性があることに、大きなショックを受け、不安な日々を過ごしています。

コンテンポラリーダンスというジャンルに属する Noism の舞台は必ずしもわかりやすいものではありません。

しかし、見た者の中に長く留まり、刺激してくれる舞台です。ダンスは捕まえておくことができず、その一瞬一瞬で、過ぎて終わってってしまう性質のものかもしれませんが、不思議なことに、Noism の舞台は深く私たちの中に根を下ろしてしまうのです。それは日々、鍛錬に鍛錬を重ねるプロの舞踊家が一期一会で踊る舞台だからこそだと思います。

Noism がある新潟市でダンスに打ち込む私たちは、全国的にも、本当に恵まれていると思っています。間近に世界トップレベルの舞踊が見られる環境などそうはないからです。

Noism の舞踊は人生を変える力を持っています。Noism の舞踊は私たちの血となり肉となって私たちの身体に宿っています。

これまで、こんなにも豊かな状況を用意してくれた新潟市に感謝しています。

そして恵まれた私たちがなすべきことは。

Noism が新潟市に蒔いた種を、この先、私たちが、ダンスにとどまらず、「私たちの将来」という舞台上、一人ひとりが様々な役割を担い、立派な花にして咲かせていくことだと思います。

それもまた、Noismのある新潟市でダンスに打ち込む私たちの務めなのだと思います。

引き続き、私たちにNoismを見せてください。
引き続き、私たちの妹や弟たちにNoismを見せてあげてください。
いつまでも他県が羨む、Noismのある新潟市であってください。

令和2年（2020年）9月以降もNoismの活動が継続されることを強く要望いたします。

高校ダンス部員、ダンス部OB・OG有志一同
代表 新潟南高校ダンス部OB 早福圭太（新潟大学1年モダンダンス部所属）